

# 教職科目「総合的な学習の時間の指導法」の授業設計についての 重点抽出に関する研究

藤本 義博・神 孝幸\*

岡山理科大学教育推進機教職支援センター

\* 青森県立青森南高等学校

(2020年11月2日受付、2020年12月11日受理)

キーワード 教職課程、教員養成、総合的な学習の時間、主体的・対話的で深い学び

## 1. はじめに

2015年の中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」において、大学が教職課程を編成するに当たり参考とする指針（教職課程コアカリキュラム）を関係者が共同で作成することで、教員の養成、研修を通じた教員育成における全国的な水準の確保を行っていくことが必要であると提言した<sup>1)</sup>。これを受けて、「教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会」が開催され、教育職員免許法及び同施行規則に基づき全国すべての大学の教職課程で共通的に修得すべき資質能力を示すものとして、「教職課程コアカリキュラム」が作成された。

「教職課程コアカリキュラム」では、「各大学において教職課程を編成する際には、教職課程コアカリキュラムの内容や「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」を踏まえるとともに、大学や担当教員による創意工夫を加え、体系性をもった教職課程になるよう留意すること。その際、教職課程の担当教員一人一人が担当科目のシラバスを作成する際や授業等を実施する際に、学生が当該事項に関する教職課程コアカリキュラムの「全体目標」「一般目標」「到達目標」の内容を修得できるよう授業を設計・実施し、大学として責任をもって単位認定を行うこと。教職課程を履修

する学生に対して、教職課程コアカリキュラムや教育委員会が定める「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」等の内容も踏まえ、早い段階から教員としての適性を見極める機会を提供し、卒業時まで修得すべき資質能力について、学生が見通しをもって教職に関する授業科目を学ぶことができるように指導を行うこととした。

教育職員免許法及び同法施行規則改正の2019年4月1日の施行に伴い、2019年度入学生から、全国の大学において、新たに履修内容を充実した教職課程が実施された。そこで本研究は、新たに必修として位置付けられた教職科目の総合的な学習の時間の指導法に関する授業の設計と実践を行って、教員の養成段階にある学生の実態把握と2021年度第3学年が履修する総合的な学習の時間の指導法の授業設計の重点の抽出を目的に行った。

## 2. 授業設計の重点抽出方法

教育職員免許法及び同法施行規則改正の2019年4月1日の施行に伴い、2019年度入学生が第3学年に進級する2021年度に8時間で計画している。この対象となる学部生の履修者予定数は、2020年10月現在277名である。一方、2019年度以降に入学して教員免許の取得を目指す大学院生と教

職特別課程の学生は、2019 年度、2020 年度にそれぞれ総合的な学習の時間の指導法を履修しなければならない。そこで、2019 年度入学の教職特別課程 4 名、大学院生 2 名、再履修生 1 名の計 7 名は 2019 年 8 月 29 日～9 月 4 日に、また 2020 年度入学の教職特別課程 1 名、大学院生 1 名の計 2 名は 2020 年 9 月 1 日～2 日に集中講義を開講して、受講学生 9 名に対して総合的な学習の時間の指導法の授業を実践し、授業の終わりに「学習の前後を比べて、あなたの考え方はどのように変わりましたか」という振り返りを実施して、授業内容と関連の強い記述内容から重点を抽出する。

また、授業の事前と事後にパフォーマンス課題を課して、その記述内容を分析して重点を抽出する。受講学生に提示したパフォーマンス課題は、「あなたは、中学校の教員として、第 1 学年の総合的な学習の時間の授業を 1 年間（35 時間）担当することになりました。生徒が探究する課題は『特別天然記念物オオサンショウウオ保護啓発プロジェクト』で、小学校低学年向けに特別天然記念物オオサンショウウオの保護啓発を図るための絵本を、生徒一人一人に作らせることにしました。授業で指導する生徒数は 20 名です。35 時間の中で生徒に指導すべき学習内容をすべて抽出しましょう。」である。

### 3. 総合的な学習の時間の指導法の授業設計

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総合的な学習の時間編<sup>2)</sup>で示された全体目標は、「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。」である。また、「各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。」と示された。

#### 3-1 授業目的

本授業では、総合的な学習の時間の目標に掲げられた探究的な見方・考え方を働かせた横断的・

総合的な学習を通して、よりよい課題解決、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成の指導について、学習指導要領解説と実践事例を基に説明することができるようになることを講義目的とする。また、総合的な学習の時間における、主体的・対話的で深い学びを実現した探究的な学習の過程をグループで設計・相互評価して、実践的な指導の能力を身に付けることを講義目的とする。これは、教職支援センター教育課程編成・実施の方針にもっとも強く関与するものである。

#### 3-2 達成目標

##### （1）総合的な学習の時間の意義と原理

- ① 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から指摘できる。
- ② 学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を指摘できる。

##### （2）総合的な学習の時間の指導計画の作成

- ③ 各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な事例を説明できる。
- ④ 主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を説明できる。

##### （3）総合的な学習の時間の指導と評価

- ⑤ 探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを身に付けている。
- ⑥ 総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を説明できる。

#### 3-3 アクティブ・ラーニング

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第 197 号）<sup>3)</sup>では、主体的・対話的で深い学び（いわゆる、アクティブ・ラーニング）を実現する授業を設計・実践することが教師に求めている。このことから、小集団グループ編成で課題解決の学習を生徒の立場で体験すると共に、教師の立場で模擬授業演習を行い、総合的な学習の時間の理論と実践を関連付けて実践的指導力の基礎を育成することを目指す。

#### 4. 実践授業

表1に示したように、第1回目の授業で中学校と高等学校の総合的な学習の時間の実践事例を視聴させて、総合的な学習の時間の特徴を具体的に把握させた。その後、第2～6回目に理論を学習させた後、第7回目に第1回目に視聴させた中学校の総合的な学習の時間の「特別天然記念物オオサンショウウオ保護啓発プロジェクト」に関する学習指導案を作成して発表する演習を行った。第8回目には最終試験を実施した。

##### 3-1 授業の詳細と受講した学生の反応

##### 3-1-1 第1回目の授業

小・中・高等学校における総合的な学習の時間の実践事例の特色について読み解いた。

まず、中学校で取り組んだ総合的な学習の時間の学習の中で、最も印象に残った内容をあげさせて意見交換を行った。その結果、表2に示すように、地域の歴史的建造物や通学路の調査を行って模造紙を作成し発表活動を行う「地域調べ学習」

が9名中4名、地元の職場訪問でインタビューして業務内容や働きがいについて調査を行って発表活動を行う「職場体験学習」が2名、修学旅行で研修を行った学習内容についてポスターを作成して発表活動を行う「修学旅行学習」が1名、部落問題について講演を拝聴後、フィールドワークを実施した結果を模造紙にまとめて発表活動、人権

表2 印象に残った学習内容

分類	件数	学習内容
地域調べ	4	地域の歴史的建造物や通学路の調査を行って模造紙を作成し発表活動
職場体験	2	地元の職場訪問でインタビューして業務内容や働きがいについて調査を行って発表活動
修学旅行	1	修学旅行で研修を行った学習内容についてポスターを作成して発表活動
人権学習	1	部落問題について講演を拝聴後、フィールドワークを実施した結果を模造紙にまとめて発表活動、人権啓発ポスターを作成して発表活動
講話	1	妊娠から出産、子育ての責任と家族愛の講話

表1 実践授業の形態と具体的な授業内容

回	形態	具体的な授業内容
1	講義	中学校の総合的な学習の時間で印象のあった内容説明 中学校における総合的な学習の時間の実践事例を視聴
2	講義	「総合的な学習の時間の意義」、「総合的な学習の時間の趣旨と教育課程上の位置付けの変遷」を整理
3	講義	「総合的な学習の時間の目標」、「総合的な学習の時間の内容と探究課題」、「総合的な学習の時間とカリキュラムマネジメント」を整理
4	講義	「年間指導計画、単元計画の書き方」、「年間指導計画、単元計画の書き方」、「主体的・対話的で深い学びの授業づくり」を整理
5	演習 講義	BS法とKJ法を活用した演習 「考えるための技法(思考スキル)の活用」、「考えるための技法(思考スキル)を発揮させる思考ツールを活用した授業設計」
6	講義	「総合的な学習の時間における学習指導・ICT活用・評価のポイント」を整理
7	演習	「オオサンショウウオ保護啓発プロジェクト」の学習指導案の発表と改善
8	試験	最終試験



図1 中学校の事例（指導計画）

啓発ポスターを作成して啓発活動を行う「人権学習」が1名、妊娠から出産、子育ての責任と家族愛の講話をあげた学生が1名であった。このことから、学生の大半は、総合的な学習の時間が探究活動、発表活動、啓発活動を主な活動として行われていることを捉えている実態を把握した。講話をあげた1名は、教科教育領域、特別活動領域、総合的な学習の時間領域の教育領域概念が未形成であると考えられるので、第2回目以降の授業で留意して指導を行うこととした。

次に、中学校と高等学校における総合的な学習の時間の実践事例をそれぞれ1例ずつ、配布資料と授業の写真と動画を提示して60分間解説した。中学校の実践事例は、図1のように「特別天然記念物オオサンショウウオ保護啓発プロジェクト」<sup>4)</sup>で実践された35時間の指導計画を提示した。この資料を基に、「目的設定」、「計画」、「探究活動」、「表現活動」、「交流・貢献」、「まとめ」について、授業のねらいと学習活動の様子を写真と動画を提示しながら解説した。

青森県内青森県立B高等学校の実践事例は、表3に示したように「青森県内のご当地商品を素材にした全国展開可能なヒット商品開発プロジェクト」で実践された13時間の指導計画を提示した。この資料を基に、「解決すべき課題とは何か」、「課題の本質は何か」、「課題解決案をつくろう」、「課題解決案をまとめよう」、「課題解決案の発表資料をつくろう」、「自分たちの言葉で伝えてみよう」、「課題解決案を見直そう」、「課題解決案を

表3 高等学校の事例（指導計画）

青森県立B高校 【総合的な学習の時間】	
対象学生	2年生 240人
曜日・時限	金曜日 15:20~16:10、(連講の場合 15:20~17:10)
具体的到達目標	<p>現実社会の課題は「正解や解決方法が一つとは限らない」ものです。この演習では、実社会の課題を教材に課題解決の普遍的な手法を学び、大学卒業後に社会で活躍するために必要な能力を高めることをテーマにします。</p> <p>1) 課題を具体的に把握し、評論家ではなく実践者として対応できる 2) 自分の考えを自分の言葉でまとめ、他者に伝えられる が到達目標です。</p>
授業の概要	<p>企業人をゲストに招き、ゲストと共に課題「青森県内のご当地商品を素材にした全国展開可能なヒット商品開発プロジェクト」に探究的に取り組みます。</p> <p>授業は、グループワーク中心のスタイルで進め、自分たちの考えをまとめ、みんなの前で発表する機会を設けます。</p>
授業の内容予定	<p>第1講(4/17)「解決すべき課題とは何か」 ~体育館~ 「課題解決」の手法と手順を学びます。</p> <p>第2講(5/1)「課題の本質は何か」 ~体育館~ クラスごとに5~6人で1チームを作り、例題をもとに「課題の本質」について議論し、グループごとに考えをまとめるワークをします。</p> <p>第3・4講(5/15)「課題解決案をつくろう」 ~各教室~ 企業人をゲストに招き、そのゲストが扱う商品を題材に、ゲストとともに「新しいギフト商品をつくる」課題に取り組みます。※ゲスト6人+大学生6人</p> <p>第5講(5/29)「課題解決案をまとめよう」 ~各教室~ 第3・4講で得た課題解決案を自分たちの言葉でまとめます。</p> <p>第6講(6/19)「課題解決案の発表資料をつくろう」 ~各教室~ 第5講でまとめた自分たちの案を、伝えるようにまとめます。</p> <p>第7・8講(8/28)「自分たちの言葉で伝えてみよう」 ~体育館~ クラスごとに中間発表会を行い、案をブラッシュアップします。1チーム発表8分+質疑応答5分、振り返り30分。※ゲスト6人+大学生6人</p> <p>第9講(9/4)「課題解決案を見直そう」 ~各教室~ 課題解決案の見直しを行います。</p> <p>第10講(10/2)「課題解決案を再提案しよう」 ~各教室~ 課題解決案の見直しを行います。</p> <p>第11講(10/9)「自分たちの言葉で伝えてみよう2」 ~各教室~ 各クラスで予選を行い、クラス代表チームを決定します。</p> <p>第12・13講(10/30)「自分たちの意見を伝えよう」 ~体育館~ クラス代表チームによる発表と、審査員によるフィードバックと表彰。 1チーム発表10分、講評10分。※審査員：ゲスト+大学生</p>

再提案しよう」、「自分たちの言葉で伝えてみよう2」、「自分たちの意見を伝えよう」について、授業のねらいと学習活動の様子を写真と動画を提示しながら解説した。

学生Aは、「総合的な学習の時間で何を学ぶのか、特別活動やその他の教科の学習と区別がついていなかったが、主に課題を設定して時間をかけて課題解決に向けて追究していく学習活動の時間であることが分かった。」と授業を振り返っていた。

学生Bは「初めは総合的な学習の時間とはどのような学習内容を扱うのか思い出せませんでした。が、授業事例の映像教材を通して、中学校で実際に行われている授業の例を知ることができました。具体的な例を学ぶことで、総合的な学習の時間の教材研究に役立てることができ、今後の教職課程の授業全般に生かしていける授業を受けることができたと感じました。」と授業を振り返っていた。これらの回答から、総合的な学習の時間の特色ある事例を第1回目に提示することは非常に重要であると考えられる。

### 3-1-2 第2回目の授業

総合的な学習の時間の意義と役割、目指す資質・能力について読み解いた。

具体的には、プレゼンテーション資料を提示しながら、「総合的な学習の時間の意義」、「総合的な学習の時間の趣旨と教育課程上の位置付けの変遷」について、「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編」を解説した。

学生Fは、「総合的な学習の時間の目標に繰り返し出ているように、『探究』という課題を解決するための『最適解』を追究する学習が総合的な学習の時間であることが分かった。生徒の時には総合的な学習の時間の授業の振り返りにどういう意図があるのか分からなかったが、自分の考えた最適解への自覚を得るための学習の一つであったのだということを理解できた。」と回答した。このように、総合的な学習の時間の意義について、「探究」と「最適解」を用いて変容した考えを回答した学生は9名中3名であった。

学生Cは、「総合的な学習の時間は、自分の人間的な総合力を試されている気がしました。『協力的』とか調べ物をする『フィールドワーク』とか『振

り返り』、何より前向きな『生き方』は、今の私たちにとって重要だと感じました。自己の生き方を具体的に、現実的に考えて、『生き方』を学ぶことが重要な学習だと思いました。」と授業を振り返っていた。このように、「自己の生き方」を用いて変容した考えを回答した学生は9名中4名であった。

### 3-1-3 第3回目の授業

総合的な学習の時間の目標及び各学校で定める目標及び内容について読み解いた。

具体的には、プレゼンテーション資料を提示しながら、「総合的な学習の時間の目標」、「総合的な学習の時間の内容と探究課題」、「総合的な学習の時間とカリキュラム・マネジメント」について、

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編」を解説した。

「総合的な学習の時間の目標」と「総合的な学習の時間の内容と探究課題」について、学生Aは「総合的な学習の時間の目標は、4つの大まかな探究活動を基に、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えるための力を身に付けていくことが目標であるので、学校、地域内での活動だけでなく、実際、その活動の経験者などの人的、物的資源を有効に活用できるような人間関係を築くことが教師である私たちに必要なことであると感じた。生徒の成長を支援するためには、まずは自分自身が自己の生き方を常に考える必要があると感じた。」と授業を振り返って回答した。

「総合的な学習の時間とカリキュラム・マネジメント」について、学生Bは「『カリキュラム・マネジメント』は私にとって聞き慣れない言葉でしたが、本授業ではカリキュラム・マネジメントの意義や総合的な学習の時間の計画でカリキュラム・マネジメントをする上で重要な3つの側面について学習することによって、教育現場で総合的な学習の時間にどのような内容を扱ったらよいのかを理解することができ、今後の教職課程の学習にも活かしていくことができると思うようになりました。」と授業を振り返って回答した。第3回目の授業は、主に「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編」の理論を解説することに終始したが、学生自身の学業と関連させながら学ぶ姿勢が見られた。



### 3-1-4 第4回目の授業

主体的・対話的で深い学びを実現する年間指導計画及び単元計画（探究的な学習）について読み解き、実践事例の単元計画を解説した。

具体的には、第1回目に中学校の総合的な学習の時間の実践事例として提示した「特別天然記念物オオサンショウウオ保護啓発プロジェクト」の単元計画（図1）を再掲して指導計画の理論と実践との融合を図ることができるように留意して、「年間指導計画、単元計画の書き方」、「学習指導案の書き方」を解説した。さらに、第2学年で履修する教育の方法と技術の授業で学習した「主体的・対話的で深い学びの授業づくり」について復習を兼ねて本事例と関連付けながら解説した。

「年間指導計画、単元計画の書き方」、「学習指導案の書き方」について、学生Eは「総合的な学習の時間の単元案や指導案の作成は難しそうであると同時に楽しそうでもあると思いました。私は、教育実習の際にグループワークで授業を行ってみたのですが、とても難しくてうまくいきませんでした。しかし、自主性が高い生徒は楽しそうにしていたので、自主性がしっかりともてる単元案や指導案を立てる必要があると思います。」と授業を振り返って回答した。

学生Fは「年間指導計画、単元計画は、教科の計画と比べて季節・行事などを考えた適切な時期に行ったり、人的・物的資源の活用や異校種・異年齢との交流を計画したりするなど、教科と異なり少し特殊な配慮が必要だと分かった。学習指導案は、教科で学んできた形式とほとんど同じで、考えやすいかなと思った。主体的・対話的で深い学びの授業をつくるために、3つの資質・能力や探究のプロセスを理解して計画に取り入れることでより理想の授業に近づくとと思う。」と教科指導と比較しながら総合的な学習の時間特有の配慮事項を認識していた。

学生Dは、「自分が生徒だった頃は何のための時間なのか目的が分からず取り組んでいた活動があったので、探究のプロセスを通して生徒自身で関心や疑問を見つけられるような身近な題材を選定して指導計画を立てる必要があることが分かりました。また、自分が数学の教員になる際に、大学

での学びがあまり活かされないと考えていましたが、この授業を受けてからは教科でも総合的な学習の時間でも、大学での情報技術の学びが活かせる場面が多くあると思ったので、(大学での学びは)生徒の深い学びを実現するために大切だと思いました。」と、大学での教職科目を履修する意義を認識していた。

### 3-1-5 第5回目の授業

B S法とK J法を活用した演習を実施するとともに、「考えるための技法（思考スキル）の活用」、「考えるための技法（思考スキル）を発揮させる思考ツールを活用した授業設計」について、第1回目に提示した「特別天然記念物オオサンショウウオの保護啓発プロジェクト」の実践事例と関連付けながら解説した。

具体的には、演習については、「高校生のための岡山理科大学まるわかり」のプレゼンテーションを作成して発表する活動の中で、B S法とK J法を体験させた。

「B S法とK J法の演習」について、学生Dは「K J法を用いた発想の整理は、高校時代と教育実習で実際に取り組みました。考えを見える化できると、異なる意見を批判的にとらえる機会が減り、教師間の繋がりが深まると考えます。」と授業を振り返って回答した。

「考えるための技法（思考スキル）の活用」について、学生Bは「思考スキルという言葉は、私にとって聞き慣れない言葉であったため、どのような意義があるのか分かりませんでした。本授業を受けて、思考スキルとは考えるための技法のことであり、思考ツールを使った整理・発散の分類分けによって思考が可視化され、相手に分かりやすく伝えることができる良いツールだと思いました。」、学生Fは「思考スキルは思っていたよりたくさん種類があつて驚いた。また、見えない思考を見えるようにする思考ツールには大きく分けて、整理と発散があることを初めて知った。『クラゲチャート』も初めて見たので、分類するときには戸惑ったけど使ってみたいと思った。」と授業を振り返って回答した。

### 3-1-6 第6回目の授業

「総合的な学習の時間における学習指導・I C

T活用・評価のポイント」について、第1回目の授業で提示した実践事例を基に解説した。

「学習指導のポイント」について、学生Dは「教師は生徒から学ぶ点も多いので、生涯学び続ける姿勢をもって取り組むことが重要であることを、教育実習を経て痛感しました。今回は、教師が教材に魅力を感じるものの必要性を新たに学びました。」と授業を振り返って回答した。

「ICT活用」に関して、学生Fは「総合的な学習の時間は、情報との関連が深いと聞いて驚いたが、よくよく考えれば、インターネットや本などを多用するので納得できた。」と授業を振り返って回答した。

「評価」に関して、学生Fは「中学校の教育実習では、理科のワークシートや自主学習プリントにコメントをつけさせてもらった。そのときは、どんなことをコメントとして書いたらよいのか分からなくて困ったのをよく覚えている、総合の時間のコメントの書き方を学んで、もっとこう書けたら良かったなと思った。」と授業を振り返って回答した。また、学生Gは「総合的な学習の時間において、評価の仕方は他の教科・科目と違い、(生徒に記述させた)文章を評価しなければならないことについて、教師側も生徒のことをよりよく見ないといけないと感じた。評価に関してはA「課題解決に必要な知識・技能の評価」、B「探究的な学習の過程における思考力・判断力・表現力等の成長の評価」、C「生徒のメタ認知の評価」、D「学習の意味・価値を自覚の評価」、E「生徒が見通しをもてるための形成的評価」というA～Eをきちんと意識して取り組みたいと感じた。」と授業を振り返って回答した。

### 3-1-7 第7回目の授業

第1回目から第6回目までの総合的な学習の時間の指導法の授業で修得した知識・技能を活用して、「オオサンショウウオ保護啓発プロジェクト」の学習指導案の作成演習の後、作成した学習指導案の発表と改善活動に取り組ませた。

学生Iは、「年間指導計画や単元指導計画を整理してみると留意点の部分を考えるだけでも簡単には課題を設定することは難しく、よく考える必要があると分かった。それを踏まえて、生徒が主体

的・対話的で深い学びのある授業に取り組むのだから、きっと将来自分のためになる力を習得するための講義だなあと感じる事ができた。」と学生自身の学び方を振り返って回答した。

### 3-1-8 第8回目の授業

最終試験を実施した後、教職科目の必修である総合的な学習の時間の指導法を受講して自己の変容について回答させまとめた。

学生Eは、「総合的な学習の時間が、学校教育の中心となっていることが講義全体を通して分かってきました。子どもはやはり褒められるとすごく喜んでやる気を出してくれるので、成果を認め意欲が高まるように評価していくことが大切だと思います。」と授業全体を振り返って回答した。

学生Dは「今まで(教職課程の)教科の目標を学習する際は、一字一句間違えず覚える方法をとってきました。この講義では、学習指導要領と具体的な授業の例とを結び付けて学ぶことで言葉の意味をしっかりと把握できたので、今後の(教職課程の)勉強法を改善しようと思います。」と教職課程の授業に対して自己調整する様子が伺えた。

## 5. 結果と考察

### 5-1 授業の振り返りの記述分析

#### 5-1-1 総合的な学習の時間の特徴を把握するための指導の充実

学生の大半は、総合的な学習の時間が探究活動、発表活動、啓発活動を主な活動として行われていることと捉えている実態を把握した。一方、「総合的な学習の時間で何を学ぶのか、特別活動やその他の教科の学習と区別がついていなかった。」と回答した学生がいたことから、教科教育領域、特別活動領域、総合的な学習の時間領域のそれぞれの教育領域概念が未形成である学生が存在するので、総合的な学習の時間の目標を他の教育領域と比較しながら理解させることが大切であると考えられる。

#### 5-1-2 自己の生き方を省察する学習場面の充実

「人的、物的資源を有効に活用できるような人間関係を築くことが教師である私たちに必要なことであると感じた。生徒の成長を支援するためには、まずは自分自身が自己の生き方を常に考える必要があると感じた。」「きっと将来自分のために

なる力を習得するための講義だなあと前半4回の講義で感じることができた。」と学生自身の学び方を振り返っていた。このように、学生自身の学業と関連させながら学ぶ姿勢が見られたことから、教職科目を履修している学生自身の省察活動を本授業に取り入れることは一層の教育効果が期待できると考えられる。

#### 5-1-3 理論と実践との関連的指導の充実

「具体的な例を学ぶことで、総合的な学習の時間の教材研究に役立てることができ、今後の教職課程の授業全般に生かしていける授業を受けることができたと感じました。」とあることから、総合的な学習の時間の特色ある事例を第1回目に提示することは重要であると考えられる。

#### 5-1-4 他の教職科目との関連的指導の充実『カリキュラム・マネジメント』や『思考スキル』という言葉は私にとって聞き慣れない言葉でした。」と回答した学生がいたことから、教育課程概論や教育の方法と技術等の他の教職科目の学習内容と関連付けて指導をしていく必要があると考えられる。

#### 5-1-5 評価コメントの演習の充実

「中学校の教育実習では、理科のワークシートや自主学習プリントにコメントをつけさせてもらった。そのときは、どんなことをコメントとして書いたらよいのか分からなくて困ったのをよく覚えている、総合の時間のコメントの書き方を学んで、もっとこう書けたら良かったなと思った。」や「総合的な学習の時間において、評価の仕方は他の教科・科目と違い、(生徒に記述させた)文章を評価しなければならないことについて、教師側も生徒のことをよりよく見ないといけなと感じた。」などと解答した学生がいたことから、総合的な学習の時間における評価コメントの演習を充実する必要があると考えられる。

#### 5-2 パフォーマンス課題の記述分析

総合的な学習の時間の指導法の授業の事前と事後に、パフォーマンス課題に取り組みさせて記述内容を分析した。受講学生に提示したパフォーマンス課題は、「あなたは、中学校の教員として、第1学年の総合的な学習の時間の授業を1年間(35時間)担当することになりました。生徒が探究する課題は『特別天然記念物オオサンショウウオ保護啓発プロジェクト』で、小学校低学年向けに特別天然記念物オオサンショウウオの保護啓発を図るための絵本を、生徒一人一人に作らせることにしました。授業で指導する生徒数は20名です。35時間の中で生徒に指導すべき学習内容をすべて抽出しましょう。」である。図2の上段はパフォーマンス課題の事前調査、下段は事後調査の記述例であ

Figure 2 displays two examples of student responses to the performance task, organized into two sections: Pre-survey (top) and Post-survey (bottom).

**Pre-survey (Top Section):**

- ・オオサンショウウオはどんな生き物か。
- ・どうして保護が必要なのか? (保護しないといけないのか?)
- ・現在、どうやって保護しているのか? (保護活動の内容)
- ・保護のやり方は教科書にあるのか?
- ・保護とはどういうことか?

**Post-survey (Bottom Section):**

- ・オオサンショウウオの生態について
  - ・生息地域
  - ・住む環境
  - ・食餌
  - ・天敵や特徴
- ・保護の理由について
  - ・影響は?
  - ・人と共存するための?
- ・実際にオオサンショウウオを飼育
  - ・飼育方法
  - ・観察方法
- ・インターネットの正しい利用と活用方法
- ・保護プロジェクトに参加しては人の話を聞く

Additional notes on the right side of the bottom section include:

- ・絵本の書き方
- ・絵の味
- ・文字の入れ方、読みやすさ
- ・発表するための味
- ・声の大きさ
- ・絵の雰囲気
- ・評価

図2 パフォーマンス課題の記述例

(上段が事前調査、下段が事後調査)



表4 パフォーマンス課題で学生が指摘した指導内容

学生が指摘した指導内容	学生A		学生B		学生C		学生D		学生E		学生F		学生G		学生H		学生I		合計		有意確率	結果
	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後		
① 保護の目的	0	0	1	0	1	0	0	2	1	0	2	2	2	2	1	0	1	0	9	6	0.317	n.s.
② 生態	2	1	1	0	1	1	2	4	0	0	2	4	1	2	1	2	0	1	10	15	0.167	n.s.
③ 生息数	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0.083	+
④ 生息環境の変化	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	2	0	3	1	0	0	0	5	8	0.461	n.s.
⑤ 特別天然記念物	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.317	n.s.
⑥ 野外調査	0	1	0	0	1	1	1	3	0	0	0	2	0	2	1	2	0	2	3	13	0.023	*
⑦ 絵本の作り方	1	1	0	0	2	1	0	1	2	0	0	2	1	2	0	6	1	2	7	15	0.301	n.s.
⑧ 交流・インタビュー	0	0	0	0	1	0	1	0	0	4	0	5	0	1	0	3	1	1	3	14	0.168	n.s.
⑨ 異年齢に対する配慮	0	1	0	0	1	0	0	7	1	10	0	0	1	2	0	0	0	0	3	20	0.131	n.s.
⑩ 情報活用能力(著作権・ICT活用)	0	1	0	1	0	1	0	1	0	4	0	1	0	3	0	1	0	4	0	17	0.006	**
⑪ 発表技能	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3	1	1	0	6	0	3	2	15	0.066	+
⑫ 探究技能	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	4	0.046	*
⑬ 相互評価	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.317	n.s.
⑭ 振り返り	0	0	0	0	0	1	0	3	0	2	0	0	0	0	0	2	0	2	0	10	0.039	*
合計	5	8	3	1	8	7	6	23	5	22	5	21	6	19	4	23	3	15	45	139	0.021	*

る。表4の左列は、パフォーマンス課題で学生が指摘した指導内容を分類したもので、中列は学生A～Iの事前事後の記述数を、右列は事前と事後におけるウィルコクソンの符号順位検定の結果を示したものである。

事前事後で有意差が認められなかった指導内容は、「① 保護の目的」、「② 生態」、「④ 生息環境の変化」、「⑤ 特別天然記念物」、「⑦ 絵本の作り方」、「⑧ 交流・インタビュー」、「⑨ 異年齢に対する配慮」、「⑬ 相互評価」であった。履修学生は理系の理学部や工学部、総合情報学部に属しており、「① 保護の目的」、「② 生態」、「④ 生息環境の変化」については、容易に指摘できるものと考えられる。一方、「⑤ 特別天然記念物」と「⑬ 相互評価」については、事前0件から事後1件の指摘にとどまっており、今回の授業設計では指導事項として認識されなかったといえるので、特別天

然記念物として指定される保護行政について教師の立場で教材研究をするように指示することが大切であると考えられる。また、相互評価の学習場面を提示し、その意義について対話的な学びの実現と関連付けて解説することが大切であると考えられる。さらに、「⑧ 交流・インタビュー」については、事前より事後に指摘件数が増えた学生が4名であったが変化無しまたは減った学生が5名であったことから、総合的な学習の時間の指導においての交流の事例を強調したり、対話的な学びの実現としての位置付けを明確にしたりして指導する必要があると考えられる。

事前事後で有意差が認められた指導内容のうち、「⑥ 野外調査」、「⑩ 情報活用能力(著作権・ICT活用)」、「⑪ 発表技能」、「⑫ 探究技能」、「⑭ 振り返り」については、事前より事後に指摘件数が増加した。このことから、本研究で実践した授

業の設計は、これら⑥、⑩、⑪、⑫、⑭の指導内容については有効であったと考えられる。とりわけ、「⑩ 情報活用能力（著作権・ICT活用）」については、指導内容として指摘した受講学生は事前に0件であったが、事後には9名全員が17件を指摘したことから、本研究で実践した授業設計の効果があったといえる。

一方、「③ 生息数」については、事前3件から事後に0件となった。オオサンショウウオの保護を啓発する絵本作りの中で、指導する生徒が調べた内容すべてを絵本に反映させるわけではないものの、作成した絵本の読み聞かせ等の交流活動において交流相手の小学生からさまざまな質問がなされることを踏まえると、「③ 生息数」についても生徒が進んで調べるように指導することは重要であると考えられる。

## 6. おわりに

本研究の目的は、新たに必修として位置付けられた教職科目の総合的な学習の時間の指導法に関する授業の設計と実践を行って、教員の養成段階にある学生の実態把握と2021年度第3学年が履修する総合的な学習の時間の指導法の授業設計のための重点を抽出することであった。

その結果、次の①～⑧の8点を授業設計の重点として抽出した。

- ① 総合的な学習の時間の特徴の把握
- ② 自己の生き方を省察する学習場面
- ③ 理論と実践との関連的指導
- ④ 他の教職科目との関連的指導
- ⑤ 評価コメントの演習
- ⑥ 「交流・インタビュー」と対話的な学びの関連的指導
- ⑦ 「情報活用能力（著作権・ICT活用）」の重要性の理解
- ⑧ 「特別天然記念物」等の教材研究の重要性の理解

今後は、本研究で抽出した総合的な学習の時間の指導法の重点を活かして授業設計を改訂して、教職科目を履修する2021年度第3学年277名（2020年10月現在）に実践授業を行い、重点に対する学生の教育効果を検討したい。

## 謝辞

本研究は、科学研究費補助事業基盤研究(B)課題番号：JP19H01726「授業研究を発展させるための授業研究ポータルサイトの設計と運用研究」（研究代表者：藤本義博）の一部を使用して行ったものである。

## 参考文献

- 1) 文部科学省（2015）「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」、中央教育審議会（答申）、Retrieved from [https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896_01.pdf)
- 2) 文部科学省（2018）「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編」、東山書房、165p
- 3) 文部科学省(2016)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）」Retrieved from [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm)
- 4) 藤本義博(2019)「総合的な学習の時間における情報活用能力の育成に関する実践研究」岡山理科大学、第55号B 人文・社会科学、pp.69-82

# Research on Lesson Design and Extraction of Significant Points in Teaching Method for Project Learning that is a Part of the Teacher Training Course

FUJIMOTO Yoshihiro and JIN Takayuki\*

*Center for Teaching License Support , Institute for the Advancement of Higher Education ,  
Okayama University of Science*

*1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama 700-0005, Japan*

*\* Aomoriminami senior high school*

(Received November 2, 2020; accepted December 11, 2020)

The author designed and practiced a lesson on how to teach project learning for subjects related to the teaching profession, which was newly positioned as a compulsory subject.

The purpose of the research conducted by the author is to research on lesson design and extraction of significant points in teaching method for project learning that is a part of the teacher training course

In addition, since the third grade will take the teaching method of project learning in 2021, the emphasis of the lesson design will be extracted.

As a result of the research, the following eight points (1) to (8) were extracted as the focus of class design.

- (1) Understanding the characteristics of project learning
- (2) Learning scenes that reflect on one's own way of life
- (3) Related guidance between theory and practice
- (4) Guidance related to other specialized subjects
- (5) Exercise of evaluation comment
- (6) Related guidance of "exchange / interview" and interactive learning
- (7) Understanding the importance of "information utilization ability (copyright / ICT utilization)"
- (8) Understanding the importance of studying teaching materials such as "special natural monuments"

**Keywords :** Teacher Training Course ; teacher education ; Project Learning ; Active Learning